

# インドで地酒造り 老舗酒造の挑戦

## 「無形文化遺産」追い風

といった原料は現地のものを使い、「インドの地酒」を目指す。日本産とは異なる味になる可能性があり、「不安や楽しみもある」と話す。

現地法人のアデインヤ・クナル・ビジャヤ社長（左）によれば、日本酒の輸入には高関税がかかり、飲食店によっては販売価格が約10倍になることも。現地

の「国連教育科学文化機関（ユネスコ）による無形文化遺産登録を狙う。「3年以上には本格生産したい」とビジャヤさん。日本酒と合せてインド料理の組み合わせも模索している。

【ニューデリー時事】人口は億人超のインドで日本酒（清酒）を造り、販路を拡大しようと福岡の老舗酒造会社「高橋商店」が現地に出張して、

創業の「高橋商店」が今年2月に現地法人を設立した。当初からまだ製造のノウハウは得られていないが、現地で試験生産や製造拠点の選定を進めている。日本の酒造会社によるインド現地法人の設立は「知る限りでは初」（在印日本大使館）という。インドでは宗教的な理由で酒を飲まない人も多いが、仮に飲酒人口が1割としても日本の全人口を上回る計算だ。中川拓也社長（50）は若い人が多く、市場の可能性を感じたと語る。日本の財務省の貿易統計によると、昨年のインド向



インドで日本酒（清酒）の試験生産に取り組み高橋商店の従業員ら＝ニューデリー（現地法人のアデインヤ・クナル・ビジャヤ社長提供・時事）